

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 68

学校名・団体名	名古屋市立穂波小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	感性豊かに 共に生きる ～認め合い、深め合う造形活動～
<p>〈活動・研究の意義および活動報告〉</p> <p><u>1 活動に至る経緯</u></p> <p>平成31年11月に、全国造形教育連盟及び日本教育美術連盟の合同研究大会が愛知県で開催される。大会テーマは、『感性豊かに 共に生きる』である。</p> <p>大会は、全体会と分科会からなり、本校は、分科会会場校（小学校3校、中学校2校、幼保4園）の1校として、図画工作科の授業及び授業研究協議会、実践研究協議会を公開する。</p> <p>そこで、本研究大会での発表に向けて、本年度より、次の2つの視点を柱に、実践研究に取り組むこととした。</p> <p>(1) 社会形成能力の育成</p> <p>自己の役割を果たしつつ、他者と協力、協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成する社会形成能力の育成は、人と人とのかかわりが希薄になっている現代を生き抜く子どもたちにとって、重要な課題である。</p> <p>本校の学区は、古くから住む方々を中心に、「子どもは地域の宝」と日頃より子どもたちをととても大切にしてくれている。子どもたちも、学校行事や地域行事など、地域の方々とのおふれ合いを楽しみにしている。また、学区には、製造業関連の大企業から中小企業まで、多くの工場や事業所が立地し、かねてより学校や子どもとの関わりも深い。</p> <p>このことから、身近な人や地域への思いを高め、造形活動につなげることで、子ども一人一人の感性や創造力を豊かに育みたいと考えた。</p> <p>(2) 人間関係形成能力の育成</p> <p>他者の思いや願いを理解し、相手の意見を聴いたり、自分の考えを伝えたりする人間関係形成能力の育成は、「アクティブ・ラーニング」「なかまなビジョン（なかまと学びを深める授業づくり）」の観点から、とても大切である。</p> <p>造形活動における鑑賞活動では、作者の思いや願い、作品のよさや創意工夫を味わうことができると共に、互いに認め合い、深め合うコミュニケーションの広がりも期待できる。</p> <p>このことから、校内に作品を飾る「展示ギャラリー」を設置し、児童はもちろん、保護者や地域の方々も鑑賞できる環境を整えたいと考えた。</p> <p><u>2 活動内容</u></p> <p>上記(1)では、1年生は近隣の保育園、2年生は学区連絡協議会の老人クラブ、3年生は読書ボランティア、4年生は地域の老人保健施設、5年生と6年生は学区内の企業との関わり生かして、身近な人や地域への思いを高めながら、それぞれの題材に取り組んだ。</p>	

その結果、子どもたちは、園児や高齢者と一緒につくったものからさらに発想を膨らませたり、企業の願いを感じ取りながら廃材をアレンジしたり、思いが十分に高まった活動になった。

上記(2)では、常時展示ギャラリーを設置することで、子どもの豊かなアイデアや工夫がいつでも見られる造形的な空間をつくることができた。また、作品の展示だけでなく、製作過程の子どもの様子を伝える写真やコメントの掲示、その場で描いたりつくったりするワークショップも実現することができた。

さらに、題材では、活動の終わりだけでなく、活動の途中で鑑賞活動を取り入れることにより、子どもが表現への意欲をさらに高めることができると考え、「中間鑑賞会」の場を設定した。このことにより、子どもと子ども、子どもと教師が共に認め合い、深め合う鑑賞活動を行うことができた。



1年生の実践 <あそぼう！ なかよしモンスター>

本実践では、保育園児と一緒に紙を自由に破き、その紙の形から見立てて『なかよしモンスター』をつくりました。そして、そのモンスターが遊ぶ「ペーパーランド」を想像し、みんなで一つの世界を完成させました。

園児との活動では、人に優しくすることのうれしさや、互いに協力してつくりあげる喜びを味わうことができました。



<展示ギャラリー>

校内の至る所に展示ギャラリーを設置しました。可能なスペースには、イーゼルや展示台なども用いて、多くの平面作品や立体作品を展示しました。

また、題材を紹介するパネルと一緒に掲示することで、子どもだけでなく、保護者の方々にも、より関心をもって鑑賞していただきました。

3 活動を終えて

子どもたちは、毎日の生活の中で、さまざまな発見や驚きをしている。そして、その感動を、「何かかたちにして残したい」「誰かに伝えたい」という思いや願いをもっている。美しさや不思議さに素直に感動する心や誰かの幸せを願って思いを膨らませる優しさなど、「感性」は、心に響く体験

・ の積み重ねによって豊かになる。

本年度取り組んだ人や地域とのふれ合いを軸とした造形活動は、心に響く体験となり、子ども一人一人の感性を刺激し、「何かかたちにして残したい」「誰かに伝えたい」という思いや願いを広げることができた。

夢中になって作品づくりに取り組む子どもの姿や、試行錯誤や創意工夫を重ねた作品には、子ども一人一人のみずみずしい感性や個性あふれる創造力が溢れていた。

また、展示ギャラリーでは、子どもが輪になって笑顔で会話する様子が見られ、児童同士のコミュニケーションの広がりが感じられた。これらの鑑賞活動により、友だちの思いや願い、表現のよさや創意工夫を刺激とし、自己のより豊かな表現へと結び付けることができたと考える。

全国大会での発表を目指した実践研究ではあったが、今回の活動が、子どもの成長にとっていかに大切であり、いかに有意義であったか実感することができた。

『感性豊かに、共に生きる』子どもたちを育てることができるよう、今後も、継続して取り組んでいきたい。